

いの流水俳壇

友草 水月選

「当季雑詠」

おぼろ夜の迷いの果ての赤のれん

岡村 嘉夫

（評）春の夜、祝賀会があり会場を出たがまだ飲み足りない。もう一杯飲みたい気分をどうしようか迷った果てに男は酒の誘惑に弱く、結局「赤のれん」の暖簾を潜ったのである。

かつて若いときには会の後2、3軒の飲み屋を梯子したものである。この「迷い」にはいろいろあるが二日酔いをし、また飲んだかねと家内の機嫌をそこねることがあったかもしれない。

季語の「おぼろ夜」臘夜とは薄絹でも垂れたような、柔らかな甘く霞んだ感じで月のある夜のこと。ほかに臘月、月朧、臘月夜などがある。

○おぼろ夜の妙見社殿朱塗りにて

松本 陽平

老鶯の声に昏れ行く山家かな

川村 博子

（評）山では鶯が終日鳴いており、声を耳にしながらいきなり早昏れて行くかと思ふ山里の閑静な情景である。

声に昏れ行くの表現がうまい。単純明快にまとめ鶯に焦点を当てて一氣に詠んでいるのが良い。

季語の老鶯とは老いた鶯ではなく、高原や山地で夏になっても鳴いている鶯のこと。夏鶯ともいう。また乱鶯、残鶯とも呼ばれている。

○老鶯や天に入りゆく岨の径

岸 風三樓

青田波どっこい生きてゐる二人

植田 紀子

（評）植田が青一色になるころは日差しも強く生長を始めた稲の色も鮮やかになる。昔は青田に入り体を二つに折って草取りをしていたものであるが今は昔日の姿はない。

青田に風が吹いてくると稲が大きく波となつて揺れていく。これを青田波と呼んでおり、いかにも爽快である。その青田波と同じように二人（夫婦）は「どっこい」と氣勢よく生きてゐる。稲の生長の活力と人生を前向きに生きてゐる生活の様子が強く感じられる句である。

○ところどころ風吹いてゐる青田かな

山口いさを

花は葉に一夜の夢の如し

津田 久美

（評）桜の花が咲いたかと思うと2、3日で散り始め、やがて数日で散ってしまった、もう葉桜になってしまった。人生もまた同じように早い。光陰矢の如しとか月日の経つのは早いものである。花と同じように人生の儚さを一夜の夢の如しと詠んでいる88歳を過ぎた作者の人生観とみる。過ぎ去った喜びや悲しみの数々が夢のようであるといつており、毎月投句してくださる前向きに生きてゐる努力家である。春に花といえは桜の花のことである。

○天と地と中に息して花あかり

角川 春樹

二句抄

惜春の川の流れのよどみなし
もの芽の次々個性さりげなし
紙兜五月の風にはしりけり
崩るるや牡丹花の王として
読みさしの本に薫風はさみけり
腕相撲父は負け役子供の日
どくだみの白の夢みる色々に
恋心棘もつゆえの薊かな

田島恵美子

大川 節弥

刈谷 志津

竹崎たかひろ

渡したる川ひるがえる鯉幟

片岡 包女

外孫のなのお愛おしく鯉幟

小野川町子

山葉を採る楽しみや余花に逢ふ

間 浩太

包丁をはじく青首大根かな

國田 貞子

幾度も持ちては下ろし西瓜買ふ

森岡 照月

田水張るそよ風に揺る夜半の月

岡村 嘉夫

葉桜や未来を託す子供達

川村 博子

老体に元気を運ぶ初鯉

津田 久美

道の駅アイススケーキや母よぶ子

友草 水月

伝来の畑に迷いし今年竹

素 堂

雨上り小粉団わんさ咲き急ぐ

水月

霊ぐもり生簀の魚の迫り上がる

水月

空うつす流れを泳ぐ紙の鯉

水月

椎の花少女の胸のペンダント

水月

名句鑑賞

目には青葉山ほととぎす初鯉

素 堂

この句も有名な俳句で、みんな知っている句の一つ。しかし芭蕉の句と違ってゐる人もゐる。素堂は芭蕉より2歳上で同時代を生きた俳人である。上五の「目に青葉」というものがあるが正しくは「目には青葉」である。初夏の風物であり青葉、ほととぎす、初鯉と季語を三つ大胆にならべてゐる。季語を喧しく言つたのは虚子からである。この句は目には青葉、耳にはほととぎす、口には初鯉という言葉がかくされているという説もある。

初鯉より土佐の旅はじまりし

稲畑 汀子

次題「当季雑詠」

締め切り 毎月5日

投句先

教育委員会事務局

いの町1700-11
893-11922

今月のこども川柳

あいさつは みんなの心 ひらくまで

川内小 2年 森田かりん

【評】小学2年生の川柳に驚かされた。終わりの「心」をひらくまで」に2年生の純粋な気持ちがあふれ出ている。

春にはね わかれと出会いがあるんだよ

枝川小 4年 今橋 心愛

【評】桜の花も咲きうれしいはずの春なのに、いろいろな別れがついてまわる。世の中たのしいことばかりではないけれど、しっかりと心をもつて大人へと成長してほしいと願っています。

始業式 いよいよほくも 6年生

枝川小 6年 濱本 はる

桜散り 出会いと別れ くりかえす

伊野南小 6年 宮崎 琳斗

ランドセル ラスト一年 さびしいな

伊野南小 6年 田邊 ひな

つくしんぼう 春をまちなね 顔をだす

川内小 3年 よこばたけゆう

バイバイは 終わりにじゃないよ 始まりだ

伊野小 6年 岩本ねいろ

笑顔から 楽しい一日 はじまるよ

枝川小 6年 佐野 りさ

じこがない そんなまいにち うれしいな

川内小 2年 森そうたろう

ともだちは いつもなかよく げんきよく

川内小 2年 よしむらいおり

・「こども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。次回提出締め切りは7月10日（金）です。たくさんの方の応募をお待ちしています。（応募は各小学校を通じてお願いします。）
※選評は、川柳連会の皆さんにお願いしています。